

1 学校教育目標

○やさしい子 ○考える子 ○つよい子 ○はたらく子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって「楽しいと感ずることが出来る学校」(わかる・できる・うれしい・つながる) ・保護者や地域にとって「信頼出来る学校」(安全・安心・健全) ・教職員にとって「はたらきがいのある学校」(切磋琢磨・資質向上・充実感・達成感)
○児童・生徒像	<p><かしこく> ・基礎学力が身に付いた児童(様々な知識・技能、聞く・話す・読む・書く・計算する力)</p> <p>・確かな学力が身に付いた児童(思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力・行動力・ICT活用力、学ぶ意欲など)</p> <p><やさしく> ・場に応じた言葉遣いのできる児童(あいさつをする・言葉遣いに気をつける)</p> <p>・自分も人も大切に出来る児童(自信をもつ・人と関わり合う・人を思いやる心・自然に親しむ)</p> <p><たくましく> ・よりよい生活習慣を身に付けた児童(心身の健康を保つ・安全な生活を送る・明るく生活する)</p> <p>・自ら体を動かし体力の向上に努力する児童(進んで遊ぶ、体を動かす、運動する)</p>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・変化を感じ取り、時代を見通した対応が出来る資質・能力を身につけた教師 ・チームで協働し、課題を乗り越えていく教職員集団 ・学習指導力、児童理解力、生活・進路指導力、外部との連携・折衝力、学校運営力・組織貢献力

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○**児童について** コロナ禍にも適応し、明るく元気に学習や活動をする児童と一部にはコロナ禍のため安定した登校が出来ずに学習の定着や登校習慣に課題がある児童の両面が見られる。特に ICT 機器の導入は、授業や児童の学校生活に大きな変化を与え、多くの児童が学習道具として使うことが出来ているが、タイピングなどに熱中するあまり読書など文章をじっくり読む機会が減っていることが課題となっている。読書活動の充実や個に応じた指導で基礎学力を定着させること、他者とのかかわる学習や体験的な活動の充実、仲間と協力したり、多様な運動に親しんだりする経験等を今年度は工夫して取り組み、児童に生きる力を付けていく。

○**教師について** コロナ禍の中でも、教育活動を徐々に通常に戻しつつ、ICT 機器の活用等新たな課題にも適応しながら、真摯に教育活動に取り組んできた。また、80周年を始めとした学校行事も時代や状況に合った方法を考え、昨年度より工夫して実施してきた。変化の激しい時代だからこそ、大切なものと変化させるものをしっかり協議し、計画的に教育活動を進める努力をしている。教職員のライフワークバランスを考慮しながら、より価値のある教育活動を推進していきたい。

○**保護者・地域について** 昨年度は80周年の節目であり、PTA・地域の皆様のご協力のもと、児童とともに祝うことが出来た。また児童や学校へ記念品をいただき、大いに活用させていただいている。年度後半は音楽会や卒業式など学校行事にも少しずつ招待する機会も増えた。今年度は昨年度以上に連携して様々な事業に取り組んでいきたい。コロナ禍であっても、児童の登校の見守りや読み語りの工夫した実施等、本当に感謝している。地域清掃など、児童の活動で恩返しをしていきたい。

【前年度の成果と課題】

重点的な取組事項－1 学力向上

・4月区調査通過率 **国語 85.3%、算数 84.1%**、は目標をやや下回った。算数では3学年が区平均を下回っているため、習熟度別指導のじっくりコース

の指導を確実にいき、つまずきのフォローも早期に行っていく。読書活動の充実も今後の課題である。2月予備調査通過率は国語 83%、算数 80%で目標を上回った。

・アクションプランに示した4項目は、◎：十分達成が2項目、○：おおむね達成が1項目、△：もう少しが1項目であり、学力向上に関しては一部（読書活動の充実）に課題が残った。

重点的な取組事項－2 豊かな心

・児童の豊かな人間性の育成を目指した4項目の取組は、◎：十分達成が1項目○：おおむね達成が3項目 であり、おおむね達成できたと考える。80周年記念行事をはじめ、昨年度以上に様々な活動に取り組み、児童の笑顔が多く、多くの場所でみることができた。学校行事の価値の再確認と授業への負荷が少ない実施方法の検討が課題である。

重点的な取組事項－3 たくましい体

・自らの健康と体力の向上を目指す児童の育成を目指した3項目の取組は、○：おおむね達成が3項目 であり、おおむね達成できたと考える。コロナ禍であっても元気に遊んだり、運動したりする児童が増えてきている。いろいろな運動を経験し、運動する楽しさをより味わわせていく。体力調査における課題種目については、年度末までに向上が見られた。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度）				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	たくましい体の育成	◎	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
<ul style="list-style-type: none"> 4月実施の足立区学力向上に関する総合調査結果の目標達成 2月の予備調査結果の目標達成 		<ul style="list-style-type: none"> 4月本調査 通過率 国語88%算数88% 2月予備調査 通過率 国語78%算数78% 		<ul style="list-style-type: none"> 4月本調査 通過率 国 87.9% 算 89.9% 平均 88.9% 2月予備調査 通過率 国 84.8% 算 76.2% 平均 80.5% 		4月本調査では、目標に国語はほぼ到達、算数は上回った。2月は国語が大きく上回った。算数はほぼ目標に達した。1年生は調査の形式に慣れていないので今後改善する見通しである。		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標(=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 継続	全校百マス計算大会	全学年算数	2か月に1回程度	<p>【指導者体制】担任+専科</p> <p>【取組のねらい・目的】基礎学力の定着朝パワーアップ時</p>	・標準タイムの達成率	<ul style="list-style-type: none"> 年間6回実施 標準タイム85% 未達成児童で記録が伸びた95% 	<ul style="list-style-type: none"> 標準タイム達成児 1年50% 2年96% 3年72% 4年80% 5年72% 6年87% 全校76.5% (83.8) 未達成時で伸びた児童 75% (97.5) 	・昨年より平均は下がった。1年生は途中で形式を変えたため、慣れなかったためタイムが伸びなかった。	○
2 継続 (一部新規)	ICT教育の推進	全学年全教科	通年	<p>【取組のねらい・目的】ICT機器を活用し、わかりやすい授業、プログラミング学習等を行う。</p> <p>①G・Workspaceで授業 ②プログラミング学習 ③AIドリルの活用(朝、授業、補習、宿題)</p>	①②③ 実施回数	<p>①ICTを使って学習できる95%</p> <p>①G・Wの授業 2年以上週3回</p> <p>②プログラミング 低中：1単元以上 高：2単元以上</p> <p>③AIドリル週3回</p>	<p>①ICTを使って学習できる98.9%(96.5)</p> <p>①G・Wの授業 2年以上週3.2回</p> <p>②プログラミング 低中：1単元実施 高：2単元実施</p> <p>③AIドリル週4.4回</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1年生も4月からタブレットを使って学習を始めるなど、学習道具として使うことが当然の段階となった。 AIドリル強化月間では平均750問程度、区内でもトップレベルの活用数だった 	◎
3 継続 (一部新規)	読書活動の充実	<p>①読語り(全)</p> <p>②読書旬間(全)</p> <p>③読書タイム(全)</p>	<p>①4月から</p> <p>②年2回設定</p> <p>③通年</p>	<p>【指導者体制】</p> <p>①図書ボランティア ②担任、保護者</p> <p>【取組のねらい・目的】</p> <p>①②③読書習慣の定着。日常的に本や文章に慣れ親しむ機会を作る。</p>	①②③ ・児童アンケート ・読書冊数、ページ数	<p>①②③</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書に肯定的な回答90% 目標冊数クリア児童80% 	<ul style="list-style-type: none"> 読書が好きな児童81.0%(86.1) 目標冊数クリア46% (61.6) 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の時間を週2回設定したがたくさん読む児童とそうでない児童の二極化が目立つ。時間を確保したことで苦手意識が増加した児童もいた。 目標冊数は読んでいないものの記録が正確にできていない児童が多いため数値が低くなった。記録の在り方を検討していく必要がある 	△

4 継続 (一部新規)	授業改善	①思考ツールの活用(全) ②足立スタンダードの徹底 ③教科担任制導入 ④デジタルノートの導入	①②③ ④ 通年	【指導者体制】全教員 【取組のねらい・目的】 ①思考を発散し、まとめるスキルを身につけ、話し合い活動を充実させる。 ②めあて→振り返り・まとめの質の向上 ③高学年の理科・社会・外国語・体育等で実施 ④高学年一部教科で導入	①授業での活用回数 ②③④アンケート	①思考ツールを活用した授業 低中：月1回 高：月2回 ②めあて・まとめがわかった 95% ③授業がわかった 95% ④デジタルノートで記録できる児童 70%	①思考ツールを活用した授業 低：月1回 中高：月1.9回 ②めあて・まとめ 88.9% (93.8) ③授業がわかった 90.5% (94) ④デジタルノート 98.8%	・思考ツールは特定の場面で使える教員が増えてきたが活用には個人差がある。 ・教科担任制は、一定の成果は上がっているが、授業進度の調整が課題である。	○
-------------------	------	---	----------------	---	---------------------------	---	--	--	---

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の豊かな人間性を育成		目標実現に向けた取組の実施結果が、4項目とも「おおむね達成」以上	4項目とも「おおむね達成」以上であった。	様々な活動に取り組み、児童の笑顔が多く、多くの場所でみることができた。主体的に取り組む活動が活性化するよう児童自身が選択決定する機会を増やしていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
あいさつの励行	・「あいさつ」について肯定的評価 95% ・あいさつ名人 各学級3割 全校120人	・あいさつ強化週間の実施 ・児童によるあいさつ運動 ・場や状況に応じたあいさつ(アイコンタクト、会釈等) ・あいさつ名人の取組、表彰	・児童アンケート「あいさつ肯定的な評価」 87.7% (88.8) ・「あいさつ名人」 3割以上 12学級(12) 全校で 200人(189)	・あいさつについてはおおむねできているが自己評価が厳しい学年もあり、分析は難しい。場面ごとのチェックリストなどを検討していく。 ・あいさつ強化週間では各学級であいさつに関する取組を自分たちで考え主体的に取り組んでいく。	○

人や環境とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「友達を大切にできた」肯定的評価 95% SDGs の理解や関心について 85% 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育、道徳教育の充実 感謝の手紙 (2月) SDGs に関わる単元を総合等で設定し実施。 ユニセフ募金、エコキャップ、アルミ缶、地域清掃、リサイクル活動等への参加 残菜削減や節電等への取組 環境かるたの取組み 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「友達を大切にできた児童」 95.0% (96.1) SDGS に関する授業は全校級で実施。 SDGS への理解関心 90.5% (91.6) 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍が明け、様々な教育活動が実施でき、他者とのコミュニケーションをとる場面が増えた。 能登半島地震の募金活動を代表委員が提案し、多くの児童が協力した。合計 11 万 5 千円を教育長に渡すセレモニーを meet を使って全校に配信した。自分たちの努力がどのような形で生かされていくか知り意欲につながった。 	◎
安全で美しい学校	<ul style="list-style-type: none"> 「学校や学級のものを大切に使う」90%以上 「身の回りにゴミや落し物がない」80%以上 廊下歩き名人、各学級 3 割以上、全校 120 人 	<ul style="list-style-type: none"> 各学級での環境整備運動 廊下歩き強化週間の実施 毎月の安全点検 栗原スタンダードの徹底 多様な想定避難訓練 東京マイタイムライン作成 	<ul style="list-style-type: none"> 「ものを大切に」 83.3% 「ゴミや落し物」 76% 廊下歩き名人 3 割の学級 9 学級 (6) 全校で 170 人 (134) 	<ul style="list-style-type: none"> 校庭の遊び道具が増え、休み時間に活発に使用して遊んでいる。ボールや一輪車、グローブ、竹馬の片付けなど、丁寧に行える児童が多い。教室愛では、机の下にもものが落ちているのに気付かない児童の多い。繰り返し声かけをし、行動できたら賞賛していく。 	○
いじめ防止 不登校への早期対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめ解消率 100% 不登校 0% 「学校は楽しい」肯定的評価 95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> QU 調査の 2 回実施、分析 毎週いじめ防止全体会実施 年 2 回教育相談全体会実施 週 2 回子ども相談日設定 人権標語、いじめ撲滅標語 ふわふわ言葉の推奨 在籍学級と特支教室の連携 不登校児童への ICT 機器を活用したサポート 	<ul style="list-style-type: none"> 1 月末いじめ認知件数 80 件 (111) であり、現在重大事案に発展したものは無い。解消済 52 件、3 か月継続観察中 24 件、3 か月以上経過観察 4 件である。 不登校率 1.4% (1.4) 児童アンケート「学校は楽しい」 96% (93.5) 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ認知件数は昨年度より減少しているが「いやなことを言われた」が引き続き多い。たった一言で心を傷つけることがあることを繰り返し指導していく。事案については今後も学校全体で共有し、未然防止、早期解決に努める。 コロナ禍が明けて、学校がいそしくなった分、リズムが合わない児童が増えている。 	○

重点的な取組事項－3		たくましい体			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
自らの健康と体力の向上を目指す児童の育成	目標実現に向けた取組の実施結果が、3 項目とも「おおむね達成」以上	3 項目とも「おおむね達成」以上であった。	自分の好きな運動を見つけ、元気に取り組む児童が増えてきている。いろいろな運動を経験させ、運動への関心を高めていく。	◎	
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果		

<p>体育授業・体育的活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「好きな運動3つ以上」 93% 「好きな運動が0」 0% 「体育の授業が楽しい」 85% 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科授業での環境設定の工夫（場、用具、ルール等） ・栗原タイムの計画的実施 ・オリパラ教育の継続 ・運動環境の工夫（体力すてっぷカードによる表彰） 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「好きな運動が3つ以上」 90% (87.9) 「好きな運動が1つもない」 0.4% (0) 「体育の授業が楽しい」 91.6% (90) 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つ以上好きな運動がある児童は増えたが、1つもない児童は2名だった。運動すてっぷカードによって好きな運動を見つけ取り組む児童が多かった。 	○
<p>体力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長なわチャレンジ区目標記録 平均75%以上達成 ・6月実施の体力調査の課題種目を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長なわ記録会・短なわ週間 ・持久走週間、記録会 ・「パワーアップカード」「体力すてっぷカード」による家庭との連携 ・グーパー運動の励行 ・投げ方教室による投力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・長なわチャレンジ目標記録 3月記録会予定 区目標記録達成 1学級 75%以上達成 3学級 (5) 平均達成率 67%(74.9) ・反復横跳び 6月 96.7%→2月 102.2% ・長座体前屈 6月 95.5%→2月 100.6% ・上体起こし 6月 102%→2月 110.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月はじめ現在75%を越す学級は2学級。そのうち1学級が区の目標記録を達成した。3月の記録会で全学年平均達成率は69%だった。 ・課題種目の反復横跳び、長座体前屈、上体起こしの3種目はどれも6月時を上回り、と平均値を繰すことができた。 	○
<p>食育・保健指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「自分の健康への関心」 95% ・給食残菜率 0.8% ・ベジファースト実施率 95% 	<ul style="list-style-type: none"> ・健診時の養護教諭保健指導、給食時の栄養士食育指導 ・セレクト給食、リクエスト給食、行事給食等の実施 ・世界の貧困や飢餓状況等を学ぶ ・食育授業、最初に食べるとよいメニューの紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの健康を考え、健康管理に努める児童 91.2% (95.9) ・給食の残菜率 0.7% (0.8) ・ベジファーストの実施率 89.6% (92.5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康への意識は9割は超えているが一部の児童は夜更かし、朝寝坊等リズムが崩れている。 ・残菜率は昨年度よりやや向上。区平均は大きく上回る。 ・野菜嫌いの児童はベジファーストだと給食が進まなくなってしまうため、わかっているにもかかわらず実践できていない。 	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【課題】・国語も算数も通過率でみると昨年度より上昇し、目標をクリアしている。算数については1学年が昨年度から継続して区平均を下回っていた。未通過の児童には個別指導を実施しているが、基礎的内容の定着に時間がかかる。国語については2学年が区平均をわずかに下回っていた。未通過の児童は国語も算数も問題文の読み取りが浅いため、文章読解力の強化が課題である。2月の予備調査は目標を国語は目標を大きく上回り、算数はほぼ達している。学年によって差があるので、残り1か月半、現担任の責任でつまづきを丁寧に解消していく。

【対策】・読解力向上のため、朝読書タイムを新たに設定し、読書に取り組む時間を確保した。読書好きな児童は集中して読んでいたが苦手な児童の中にはその意識がより強くなってしまった児童もいた。図書館資料を活用し児童の実態に応じた本の選定や多様な分野への興味関心を高めていく。

- ・授業では、国語は引き続き、読み取る際に重要な箇所や必要な箇所にサイドラインを引かせるとともに、気付いたことを書き込んでいくなど、大事な部分や考えが可視化し、深く読み取れるようにしていく。算数では、全学年においても少人数による習熟度別指導、特にじっくりコースの指導について、重点事項を明確にし、基礎学力の定着を図っていく。また MIM 指導を一層充実させ、2 年生でも継続して指導し、読みのつまずきを早期に解消していく。
- ・来年度の校内研究の柱として、「自由進度学習」を発達段階や学級の実態に応じて取り入れていく。一斉授業、自由進度学習それぞれ長所を生かし、タブレットを効果的に活用しながら自ら課題に向かい主体的に解決する資質・能力を育成していく。
- ・授業以外では、放課後学習や宿題、家庭学習等で引き続き AI ドリルを効果的に出題していく。

イ 豊かな人間性の育成について

- ・あいさつや廊下歩きなど、長年の課題については、できるようになってきた児童は年々増えていると感じるが、児童自身の自己評価は意外と厳しい。それだけ行動を意識できるようになってきている証拠と感じる。来年度は、学校の決まりだから行う・・・ではなく、より主体的な行動ができるように、各学級で具体的な取り組み策を考え、実施していく。
- ・SDGs を意識した取り組みとして、学校や西新井周辺の清掃活動「くりっこ清掃」、エコキャップ・アルミ缶回収や能登半島地震募金等、環境や苦難に直面している人への支援を積極的に行うことができた。

ウ たくましい体の育成

- ・今年度の体力調査における課題種目として「反復横跳び」「長座体前屈」「上体起こし」を取り上げ取り組んできた、6 月調査に比べ 2 月調査では・・・・・・・・
- ・今年度よりスタートした「運動すてっぷカード」により、一輪車、竹馬、鉄棒、登り棒、バスケットボール、ドッジボールで遊ぶ児童が増えた。加えて大谷グローブの登場と学校でもグローブを追加購入したことでキャッチボールをする児童も増え、休み時間には常に 100 人以上が寒さに負けず校庭で元気よく遊んでいる。一部の児童は教室に残りがちなので、日向ぼっこや散歩など無理のない範囲で外で過ごすよう促している。
- ・食育については、ベジファーストを毎日の「いただきます」のあいさつに入れ啓発しているが、野菜嫌いの児童はわかっているにもかかわらず野菜を後回しにして最後に食べるため、なかなか実行することができない。児童の気持ちを大切にしながら、引き続き啓発を図っていく。また、SDGs の観点から、残菜をできるだけ出さないようにしようとする児童が多く、残菜率は今年も 1 % を切っている。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

保護者、地域の皆様には、運動会、学芸会、学校公開、土曜授業等、公開の機会にたくさん来校いただき、児童を励ましていただいたことに感謝しております。コロナ禍が明け、様々な学校行事を再開させた 1 年でしたが、コロナ前にすべてを戻すのではなく、この間学んだ手法を活用し授業をできるだけ圧迫しないよう効率的に行ってきました。多くの内容により評価をいただき、方向性は間違っていないと感じましたが、いくつかご要望や改善点もあったので、今後もよりよいものにしていくよう検討していきます。

保護者、地域の皆様には、新しい形での学校行事にご理解をいただき、今まで以上に児童や教職員にエールを送っていただき、引き続きお力添えをいただければ幸いです。

(3) その他（学校教育活動全般について）

ICT 機器が導入され、日常的に使うのが当たり前になってきた。今後は、「使うことが目的」から「どういう使い方をするか」にシフトし、児童が主体的に学ぶ学習活動を行っていききたい。そのために足立区フィーチャースクール事業等を活用し、「自由進度学習」など児童が自ら主体的に学ぶ授業に取り組み、これからの時代を生き抜く資質能力を育成していききたい。また、高学年の教科担任制の授業の質を高めることやタブレットを使ったデジタルノートの取り組みなどもさらに進めていく考えである。